高島平パトロール

Mr.児童館、大学講師に

西郷泰之さん異例の抜てき

高島平あやめ児童館に八年勤務した後、二年前にゆりの木児童館に異動、通算八年間にわたり児童館の指導員としてエネルギッシュな活動を展開してきた西郷泰之さん（38歳＝写真）が、三月末で区職員を退職し、この四月から玉川大学の専任講師になった。

大学講師に児童館指導員が迎えられるのは、日本全国で初めてのケース。

現場で体験した数々の子どもたちとの、あるいは地域の人たちとのさまざまなかかわりを、現場の人間ならではの意見でまとめ、分析、研究し論文という形で発表し続けてきた西郷さんの努力と実績が高く評価されての抜てきだ。

もちろん西郷さん自身が評価されてのことだが、西郷さんの実践現場であった児童館そのものの役割りが、初めて社会に認められたことにもなる。今回の異例の抜てきは、西郷さんの人生にとっても児童館の将来にとっても計り知れない大きな第一歩となった。

「児童館ってどんな所？」「聞いたことはあるけど何してる所かは知らない」というのが一般的な反応ではないだろうか。

ていはこんな答えが返ってくるという。

実際には厚生省の指導としては保育園に次ぐ全国規模二番目の児童のための社会福祉施設。教育として日本各地およそ四千カ所にもおよぶ。「こんなにいっぱいある施設なのに、社会的に重要視されていない。活動の内容をきちんと示し、理解を得、より活用される有効な施設にしたい」と、西郷さんは熱っぽく語る。

社会福祉士や介護福祉士の免許取得に際して実習が重んじられているが、その実習の対象施設の中にも児童館は組込まれていない。〝遊びを通して子どもたちを応援する〟そんな児童館の本来の役割りが、単なる〝子どもたちの遊び場〟程度にしか認識されていない。かげの薄い児童館の存在感を西郷さんは嘆く。

「児童館は子どもたちの生活応援団！　不健全な子、元気のない子どもたちを元気にさせる所だという、さまざまに地域の子どもたちは地域の人たちが育てあげる。児童館はそんな地域活動を応援する所」と続ける。西郷さんの児童館時代八年間の活動の真価はこれ一筋。

ボランティア・ワークショップ、不登校の親の会〝あれやこれや〟、幼児クラブの母親サークル〝人形劇仲間〟など、数多くの新事業を仕掛けた。たくさんの子どもから慕われ、地域の人たちもさまざまな場でかかわりを深め合い、ファン層も厚い。

西校時代は公害問題に関心を持ち、大学卒業後は産業中のアルバイト先だった国際社会福祉協議会に就職。ここで初めて児童福祉を学ぶ。その後、「ディスクワークより現場がよい」と児童館指導員に転職したわけだが、児童館時代も大学院マスターコース、ドクターコースで社会福祉学を専攻し続け、快して自分自身の勉強を忘れなかった。三年前からは児童館の全国組織で「二十一遊」という〝遊び〟グループを結成し、初代代表も務めてきた。

昨年あたりから全国研修会をはじめ、全国あちこちから講演依頼が殺到。

「児童館は子どもたちの生活応援団！　不健全な子、元気のない子どもたちを元気にさせる所だという、さまざまに地域の子どもたちは地域の人たちが育てあげる。児童館はそんな地域活動を応援する所」と続ける。西郷さんの児童館時代八年間の活動の真価はこれ一筋。

ボランティア・ワークショップ、不登校の親の会〝あれやこれや〟、幼児クラブの母親サークル〝人形劇仲間〟など、数多くの新事業を仕掛けた。たくさんの子どもから慕われ、地域の人たちもさまざまな場でかかわりを深め合い、ファン層も厚い。

西校時代は公害問題に関心を持ち、大学卒業後は産業中のアルバイト先だった国際社会福祉協議会に就職。ここで初めて児童福祉を学ぶ。その後、「ディスクワークより現場がよい」と児童館指導員に転職したわけだが、児童館時代も大学院マスターコース、ドクターコースで社会福祉学を専攻し続け、快して自分自身の勉強を忘れなかった。三年前からは児童館の全国組織で「二十一遊」という〝遊び〟グループを結成し、初代代表も務めてきた。

昨年あたりから全国研修会をはじめ、全国あちこちから講演依頼が殺到。

玉川大学では社会教育、社会福祉など十科目を受持つ。

勤職時、また全国レベルで講演会や研修会の講師活動も。

「でも学問的に追求していくつもりはない」と、きっぱり「ぼくは児童館の歩く広告。児童館や子どもの理解を深める活動を今後もずっと続けます」

「西郷さんは今、『夜の児童館』を構想中。単親や両ばらんのない子どものための〝トワイライト〟を夢みる。

私生活では四歳から小学六年生まで三女二男の父親。いい加減は大変い。「相手が子どもだからって手を抜きたくないなぁ」。どんな時でも一生懸命。やさしい瞳の中に、常に本気でぶつかろうとする真の力強さがある。

（高島平九丁目在住）

聴かせたい曲次々

18日、ふれあいコンサート

街角に耳を澄ませば意外なメロディー「第三回高島平ふれあいコンサート　子どものためのクラシック入門」が四月十八日（日）午後一時から三時三十分まで、高島平区民館ホールで開かれる。

今回のコンサートも第一、二回同様、板橋区文化振興財団の助成対象で、主催は高島平ふれあいコンサート実行委員会。後援は板橋区文化振興財団、板橋区教育委員会、高島平新聞社、すまいる情報、みなみ板橋おやこ劇場。

今回のコンサートは子どものためのクラシック入門という事で、お母さんが子どもたちに聴かせたい曲を次々と選んでいる。第一部は「おはなし」と演奏で「つづるやさしい音楽史」。小学校の音楽室に貼ってある音楽年表にメロディーをのせた。バッハからサティーまでの三百年間の音楽史の中から、親しみの曲を、ナレーション付きで楽しんでもらえればという。

主な演奏曲目

・バッハ　イタリア協奏曲ヘ調BWV971から第一楽章（ピアノ独奏）
・ヘンデル　歌劇「セルセ」からオンブラ・マイ・フー（ソプラノ独唱）
・モーツァルト　クラリネット協奏曲イ長調K622から第二楽章（クラリネット独奏）
・ショパン　練習曲集作品10―12「革命」（ピアノ独奏）
・シューマン　「三つのコマンス」作品94から第2番（クラリネット独奏）
・レハール　歌劇「メリー・ウィドウ」からメリー・ウィドウのワルツ（ソプラノ独唱）
・プッチーニ　歌劇「ジャンニ・スキッキ」から私のお父さん
・サティー　官僚ソナチネ（ピアノ独奏）

第二部は「チャイコフスキー没後百年記念」でテレビションを採み、光の演出、スライドなどで舞台を飾るという。

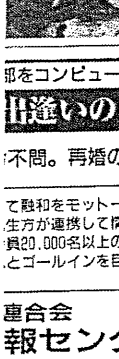
出演者は、おはなし川木正彦（オペラ演出家）とピアノ＝鈴木英子（武蔵野音楽大学講師）、神波由紀子（板橋区演奏家協会会員）、ソプラノ＝川原繁（藤原歌劇団座員）、クラリネット＝大城郁子（板橋区演奏家協会会員）

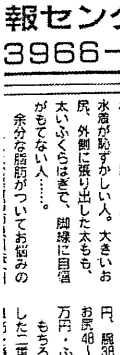
入場料は親子券（中学生以下の児童・生徒一名と付添いの父兄一名分で、一般券が千円子ども券が五百円。

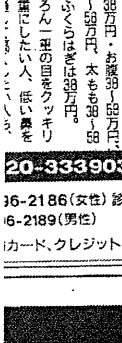
問合せ、申込みは高島平ふれあいコンサート実行委員会代表、八木さん☎三五五〇―九三五五。

本紙要請者10名に入場券プレゼント

このコンサートの模様をマルティーニ「愛の喜び」







上場あげての桜まつり（上）
七丁目町会初の桜まつり（下）

熱帯植物館建設で汚職？

高島平八丁目に板橋区が建設を進めている「区立熱帯環境植物館（仮称）」の工事をめぐって、建設業者から区の幹部職員に金銭的なウイロが広がっているという噂が広がっており、汚職事件へと発展しそうだ。

問題は、この植物館の大半をゼネコンの大成建設を中心とした共同企業体が工事を受注、来年秋の完成が予定されている。

熱帯環境植物館計画は、業界筋によると「事実はない」と報道されているが、四月一日付で、都食糧農産課長、都農業試験場長、都農業改良普及所長、都農業協同組合連合会理事、都農業協同組合連合会理事、都農業協同組合連合会理事